

水道事業の広域化等について

～上田長野地域水道事業広域化研究会における検討経過報告～

1 概要

長野市、上田市、千曲市及び坂城町（以下「関係市町」という。）の地域は、企業局が関係市町の行政区域の一部又は全部において水道事業を担っているが、令和3年5月に、長野市、上田市、千曲市及び長野県企業局の水道事業（以下「4事業」という。）の給水区域を対象として、厚生労働省による「水道施設の最適配置計画」の検討結果が示された。

そこで、関係市町及び長野県企業局（以下「関係団体」という。）は、令和3年7月、新たに「上田長野地域水道事業広域化研究会（以下「研究会」という。）を設置し、これまでに3回の研究会を開催するなどにより検討を進めてきたことから、それを「検討経過報告」として中間的に取りまとめ、令和3年11月17日「上田長野地域水道事業広域化に関するシンポジウム」において、報告した。

2 これまでの検討経過と今後の予定



水道事業の広域化等について

～上田長野地域水道事業広域化研究会における検討経過報告～



3 広域化に向けた論点整理（第3回研究会：R3.11.10）

論点 持続可能な水道事業の経営体制を構築するためには、基盤強化が必要。

→ そのための有効な手段としての広域化を検討することとし、まず、「**広域化の形態**」について論点整理する。

- 【基本的な考え方】**
- ・ 広域化の形態として、「事業統合」「経営の一体化」「用水供給事業の新設」「施設の共同化（個別経営）」を抽出
 - ・ 広域化の形態を基に、地域において考えられる水道事業の経営形態を想定し、その中から地域の実情にあったものを選択
 - ・ 将来を見据え、県と市町の役割分担も考慮して、関係市町の地域における適切な形態を検討

- 【整理方法】**
- 「広域化の形態」を事業認可、料金設定、施設整備計画等の、比較をするために必要な事項に沿って、検討
⇒ 厚生労働省の検討結果を前提に、関係市町の地域において考えられる水道事業の経営形態として8パターン想定し、それぞれのメリット・デメリットを比較

- 【現時点の整理】**
- 次の事項を勘案すると、広域化を「**事業統合**」により進めることが最も大きなメリットを得られると考えられる。
- ・ 事業統合により広域的な施設整備や財政の投資を行うことで、水道施設の最適配置を効率的に進めることができること
 - ・ 一定規模の職員数を確保することで、専門技術を有する職員の確保・育成や危機管理体制の強化を図ることができること
 - ・ 事業統合による広域化を図ることで、国の交付金措置を受けられること

4 今後実施すべき事項

事業統合による広域化について研究をさらに進めることとして、住民サービスの向上を図りつつ、効率的な経営を実現する組織体制等について検討した上で、4事業の事業統合による**財政シミュレーションを実施**する。

【進め方】 財政シミュレーションにより、「事業統合した場合」と「現状の経営体制を維持した場合」とを比較 → **財政的な効果等**について整理

財政シミュレーションを実施するにあたり、地域において検討すべき事項等

検討事項 1

【広域化に伴う水道施設等の整備内容】

- ・ 広域化による水道施設の整備計画を検討

検討事項 2

【組織体制】

- ・ 住民サービスの向上等を図ることのできる、広域的な組織体制を検討

検討事項 3

【災害等の危機管理対策の強化】

- ・ 災害等の発生時に、より迅速な対応ができる施設・組織体制を検討

検討事項 4

【水道料金の考え方】

- ・ 水道料金が事業体ごとに異なる現状を踏まえて、考え方を整理

検討事項 5

【広域化のスケジュール】

その他広域化の研究を進めるにあたり考慮すべき事項

- ・ 地域住民や議会等に対する広報、広聴
- ・ 周辺市町村との連携